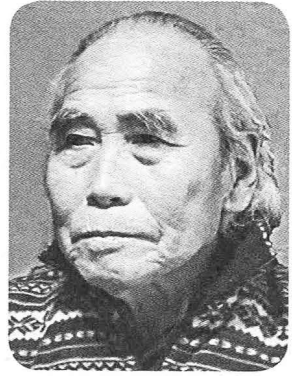


石倉吉郎

四十二年間務めた岩坂陵墓参考地陵墓守部



古浦義己

(本誌編集委員)

石倉吉郎さんは、松江市八雲町にある『宮内庁書陵部月輪地区岩坂陵墓参考地』の陵墓守部を四十一年にわたって務められた。

松江市の古志原から南に向かうと、大庭十字路を過ぎ、更に八雲町に入る峠となる。峠を下りると神納橋に行き着くが、土地の人達は神納を「かなな」と言う。

橋の手前を右に折れると、右手に小さな丘陵がある。伊耶那美命が自らの魂を納めたと古事記に伝えられる「神納山」で、そこに『岩坂陵墓参考地』がある。陵墓とは、天皇家、またその関係者の墓として宮内庁が管理する古墳のことをいう。

陵墓の入口には、現世を遮るかのように施錠された厳めしい鉄門がある。その前に、松江市教育委員会の名による説明板が立ち、次のように書かれている。

『古事記にある比婆山はこの地で、伊耶那美命の御神陵と伝えられている。古くから子授け安産の守護神として広く崇敬されたところである。明治三十三年、宮内省が全国十数か所の伊耶那美命御神陵伝説中、保存すべきものと認定し、陵墓伝説地に指定したものである。現在陵墓参考地として宮内庁が管理している。』

丘陵は石倉吉郎さんの家に隣接し、土地の人は『神納の御陵さん』と呼び古くから崇められていた。

岩坂陵墓の「参考地」とは、古い記録、地域の伝承、墳丘の形や規模、出土品などによって皇族の墳墓とされてはいるが、埋葬者を特定するだけの資料に欠ける陵墓をいう。伊耶那美命の墓とする伝承地が、県内には九か所ある。古事記に書かれている「比婆之山」は、岩坂陵墓のことであると

し、比婆山伝説を持つ全国十数か所の中から最も有力な場所として指定された。比婆山や神納の地名が陵墓参考地になった理由の一つであろう。

陵墓守部を務められた石倉吉郎さんの家は古くから地主として栄えた旧家で、吉郎さんは八代目になる。

吉郎さんは大正十三年五月二十八日、父の敬と母コトノの長男として旧岩坂村（現在の八雲町）で生まれた。昭和十一年三月、岩坂尋常高等小学校を卒業し、高等科の二年間を終えて青年学校に入る。昭和十七年七月から岩坂村役場外勤書記として勤めていた時、山口県の光海軍工廠に徴用。大平洋戦争の激化に伴い、昭和二十年一月に現役入隊となり、広島部隊から大阪の砲兵工廠へ転属する。そして終戦となり、九月に復員し、帰郷後は石倉家伝来の

